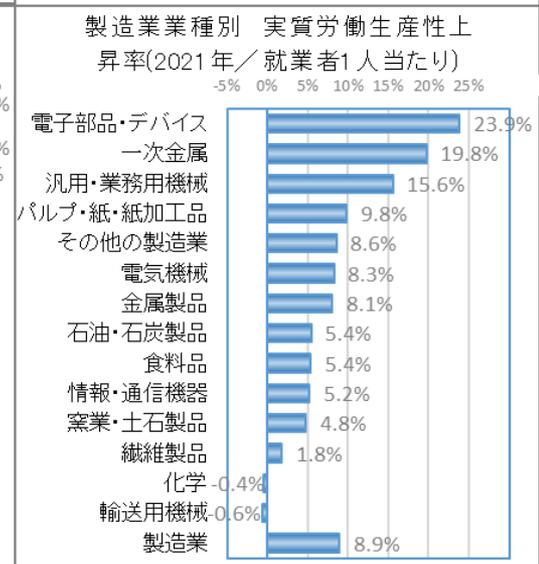
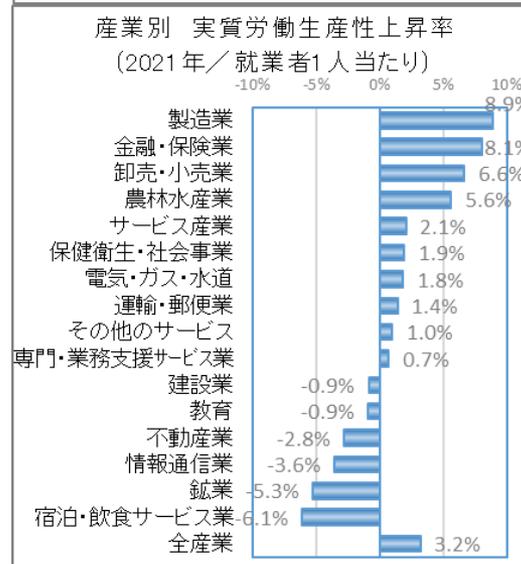
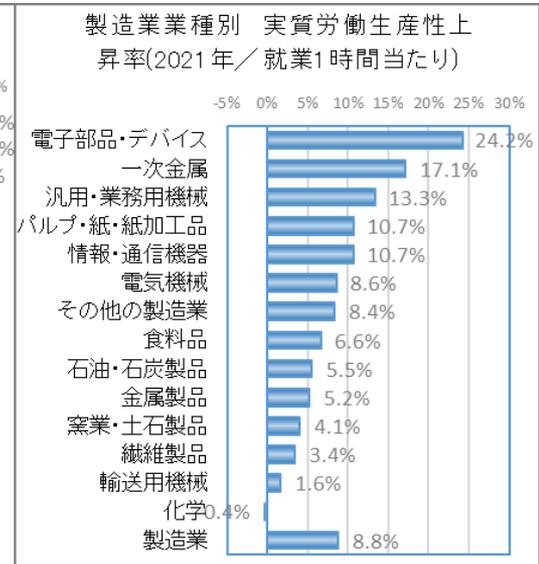
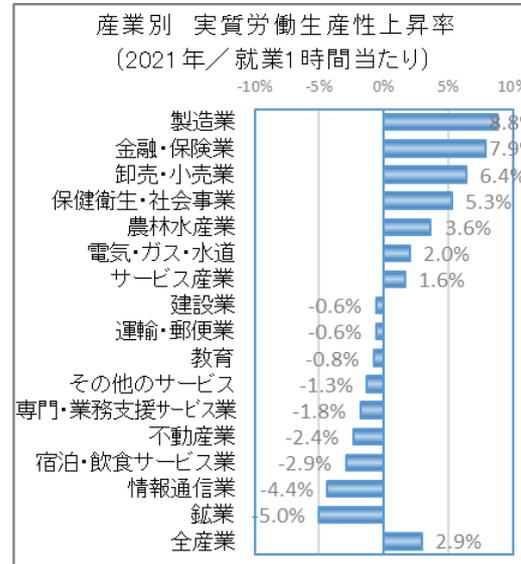


主要産業の労働生産性上昇率の推移

- 実質労働生産性上昇率は、就業1時間当たり・就業者1人当たりともに製造業が最も高かった。
- サービス産業は就業1時間当たりが+1.6%、就業者1人当たりが+2.1%。金融・保険業や卸売・小売業が好調だったが、一方で宿泊・飲食サービス業や情報通信業が前年比マイナスになっている。
- 製造業では、就業1時間当たりで+8.8%、就業者1人当たりで+8.9%。これは、2020年の労働生産性上昇率が大幅なマイナスだった反動の側面もある。業種でみると、電子部品・デバイスや一次金属の上昇率が高くなっている。



※内閣府「国民経済計算」をもとに日本生産性本部作成 ※サービス産業:電気・ガス・水道,卸売・小売業,運輸・郵便業,宿泊・飲食サービス業,情報通信業,金融・保険業,不動産業,専門・業務支援サービス業,教育,保健衛生・社会事業,その他のサービスにより構成